

2018 行政書士白熱講義 ガイダンス講義 レジюме

Part1【行政書士とは？】

- 官公署（省庁、都道府県、市町村、警察署、保健所その他の行政機関等）に提出する書類及び権利義務・事実証明に関する書類（契約書、議事録、会計帳簿、図書類等）の作成、提出手続きの代理、作成に伴う相談に応ずることなどを業とする日本国の国家資格
- 車関係、相続・遺言、離婚、産廃、建設業、農地、国際法務、法人設立、風俗営業、著作権など
- 卒業生の活躍（離婚、相続、不動産、探偵など）

Part2【行政書士試験】

- 11月の第2日曜日（午後1時～4時 3時間） 今年は11月11日（日）
受験資格なし（年齢、学歴、国籍を問わない） 願書は8月上旬より9月上旬まで
合格発表：翌年の1月下旬
- 合格率：2005年2.62% 2006年4.79% 2007年8.64% 2008年6.47% 2009年9.05% 2010年6.60%
2011年8.05% 2012年9.19% 2013年10.10% 2014年8.27%（補正措置） 2015年13.12%
2016年9.95%
- 憲法、民法、行政法、商法・会社法、基礎法学（択一4点×40問＝160点 多肢選択8点×3問＝24点
記述20点×3問＝60点）計244点（法令に関しては平成28年4月1日現在施行されている法令）
- 一般知識（政治経済社会、個人情報保護、情報通信、文章読解）4点×14問＝56点
- 計300点のうち6割（180点）とれば合格（絶対評価）
- 足切り 法令（5割以上→122点以上） 一般知識（4割以上：6問以上→24点以上）
- 一般知識で足切りの場合 or 記述で満点をとっても122点に届かない場合は、記述は採点されない
- 最近の傾向：近年の合格率は6～10% 考えさせる問題が増えた 判例問題の増加

Part3【白熱講義について】

【2018 行政書士白熱講義】（2時間×53回）

2018年1月13日（土）より2018年7月23日（水）まで（5月3日、5月5日は休講）

憲法8回、民法18回、基礎法学1回、一般知識4回、行政法16回、商法会社法6回

（回数は2017年と同様）

※本試験チェック講座7月28日（土）

※直前チェック講座：10月27日（土）予定

○お勧めの問題集

市販の択一問題集と市販の記述問題集、行政書士過去問、ベストセクション センター試験 現代社会重要問題集と政治・経済重要問題集（2019年向け）

基本のテキストをお持ちでない方は俗に一冊本と言われるものと、**六法**（後述）をご用意下さい。

○2018年の特徴

※原点に立ち戻り、インプットを中心とした講義とし、低価格ながらも高品質な講義を実現。

※改正点（個人情報保護法、地方自治法、会社法など）・新傾向に完全対応

（施行されていない法令も、改正点を踏まえて講義）

※レジュメの一層の充実（Ex. 今日のチェックポイント 新判例や重要判例を更に拡充 出題実績を表記）

※前年度白熱講義受講生割引

○受講料：2018 行政書士白熱講義：19800 円（2017 白熱講義受講生は 18800 円）

○合格するために

※マニアックな知識に走らない

※うろ覚えなら覚えぬ方がまし

※インプットはそこそこに、アウトプットを利用してインプットし直す

○用意すべき書籍

※基本書（一冊本）LEC 合格基本書 伊藤塾 TAC など

※六法（行政書士試験用） 中級以上：判例六法 模範小六法

※過去問 一問一答 公務員向け タクティクス 司法書士向け 司法試験択一

※一般知識問題集 現代用語の基礎知識